

設立 平成24年 5月15日  
開塾 平成24年 9月 8日  
発行 令和 7年 2月 8日  
(141号)

# 中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861  
茨木市東奈良2-7-10  
人間学塾・中之島  
事務局 古田修平  
編集長 西村俊幸

「宥座の器」という言葉があります。「虚なれば則ち欹（かたむ）き、中なれば則ち正しく、満つれば則ち覆（くつがへ）る」。「宥座の器」というものは、バケツのような器がぶら下がっているのですが、空の状態のときは傾き、ほどよく水を入れると正しく水平を保ち、水をいっぱい入れるとひっくり返るという器です。二五〇〇年前に、人間としての生き方を説いた孔子の教えです。人間の生き方というものは、そういうことを意識せねばならないと思います。私は徹底した掃除を教えていただき、自分なりにきれいにしよう、きれいにしようと一生懸命取り組みました。しかし、やればやるほどに、「覆る」方へといく。例えば道具が壊れたり、自分がけがをしたりと、そんな出来事にも出合わされたりします。

ていた。そのフェンスのテープをはがしてきれいにしていこうと、鍵山相談役はじめ、全国から仲間が沖縄へと向かいました。私もフェンスの掃除に六回沖縄へ行きました。相談役は「思想がどうあれ、町を汚す行為に正義はない」と言われました。自分たちが住んでいる町を少しでもきれいにしていこうとする小さな活動です。そのような活動のなかで培われていくものは、人間が生きていく道筋とよく似ています。

益はなくとも意味はある  
木南一志先生  
(一月度特別講義)

■町を汚す行為に正義はない  
某団体が中心になつて、普天

木南一志先生（一月度特別講義）

終神経を張り巡らせるわけにもいきませんが、どこで抜いていくのか。ここからこの間に、ついてはしっかりと意識すると決め、あとは見ない、というのも一つの方法だと思います。

教育者の東井義雄先生は、「掃除は、人間が生活で書く答案だ。自分がどれくらいの代物であるかを示す人間の答案が掃除だ」と言われています。その人のやつた掃除にその人の人生そのものが表れてくるという意味でしょう。できることをやれることに変えていく。

先見性を身につけるには、できたことを繰り返すことです。できた・できたを続けると何が起こるかわかるようになる。問題が起きると、次はこうなる、と見えてくるのです。

掃除の実践が人間を育ててゆくというのは、そういう目に見えない力が表えてくるのだと思います。掃除をやり続ける中で、迷いも

次第で心の持ちようも変わってしまう。小さな一つに自分自身がどういう意味を持ち、こだわるのか。

私は掃除から問い合わせられたことの一つに、「有意注意・無意注意」があります。有意注意とは、自分が気にかけていると意識していること、無意注意は気にかけていることすら忘れている状態です。掃除でも仕事でも、毎日できた、できたを繰り返していくうちに、同じように進めてしまうことがあります。始

■掃除は人間が生活で書く答案  
おむすびという大きな一つは、小さな米の  
一粒一粒からでています。その小さな一つ  
一つが集まりおむすびが成り立っていること  
を考えると、今自分がやろうとしているたつ  
た一つの小さなことをどう捉えるのか。今日  
も朝から夢拾いをしてこちらに駆け付けてく  
ださつた方々がおられます。「ゴミ拾い」を  
「夢拾い」とし、ゴミを一つ拾うたびに「ああ  
今日も夢舟へござね」と喜ぶ。その足元方

## ■相対差と絶対差

と共にお見舞いとして送つてくださいました。そこに「人の一生は短い。須臾（しゆゆ）と言つてよい」とあります。須臾とは、ほんのわずかの瞬間です。そしてその短い人生の中で、どういう人物に出会うかが、その運命を大きく左右するとあり、まさにそれを実感しています。

「0から1までの距離は1から一〇〇〇までの距離より遠い」この0を行動に置き換えたとき、0||やらない、1||やる。2||やるやる（継続）。何かを実践するとき、やらないう理由はたくさん出てくるものです。しかし実際やると決め、一度実践したならば、0は1となる。1から2・3・4・1 0 0 0は相対差です。しかし0から1のその差は、やるかやらないかの大きな絶対差なのです。

石田梅岩の石門心学の教えに「先義後利」。これは、先に義を果たすことで後から利はついてくる、という意味です。そして先義後利を実践する者は栄え、徳を施せと展開されます。私はこれは掃除の実践のことと捉えています。掃除により徳を積み、人間を作り、お返しせよと。

晏子の本を鍵山相談役から贈られたのは、私がスキルス性の癌の闘病中のときです。ブルジューから取り寄せてくござつたプロポリス

するし、辞めたくもなる。そうして懸命に考  
える。最終的には元に戻つていくのだと実感  
しています。

ところで、私はこの冬から意識して掃除を  
やめてみました。そうすると、体が動きたくな  
ってたまらなくなる。鍵山相談役が「続けてい  
くとやらずにはおれない」と言わわれていたの  
がよくわかります。本当に身につくというこ  
とは、このやらずにおれないというまでにな  
ることかと感じています。

## A グループ

- ・有意注意
- ・宥坐の器

- ・0からーはーからー1000より遠い

## B グループ

- ・良くなる人はよく沈潜する

- ・ー+ー=ー 学び+実践=ひとつのこと

## C グループ

- ・ー+ー=ー
- ・できることをやれることに

- ・0からーはーからー1000より遠い

## D グループ

- ・竹の根は下に沈む
- ・できることをやれることに変える

- ・0からーは絶対差 ーからー1000は相対差

## E グループ

- ・ー+ー=ー

- ・0からーは絶対差

- ・よくなる人はよく沈潜する

## F グループ(リモート)

- ・言っていることを実践する

- ・0からーはーからー1000より遠い

- ・先義後利

- ・0からーは絶対で、
- ーからー1000の相対差に比べ遠い
- という感想が多かったようです。

## 《グループ討議》

木南 一志 先生



総合司会 野依佐千子塾生

講師紹介 愛原啓介塾生

令和7年1月26日  
藤田 耀平 塾生

## 「東京読書尚友会」発足

人間学塾・中之島に触れてから出会う人が変わり環境が変わった。気がつけば周りにいる人達は温かく心が豊かな人ばかりになつていた。森信三先生の『修身教授録』は私にとつて初めて人間学に触れた本です。

読書会に参加してみたいと思う立ち、縁あつて初めて「京都ちおん舎読書会」に参加させていただいた時、人生初の輪読をした章が第2部第3講「人生二度なし」だった。一人で読む時とは違う読書会ならではの雰囲気にまるで森信三先生の授業に参加している学生になつたつもりで本を読み進める事ができた。そして東京でも読書会をしたいという思いがより一層強くなりました。

令和7年1月26日、多くの方々に支えていただき読書会を発足することが叶いました。この二度とない人生において読書会をする事ができるとはなんと幸運なことか。

森信三先生が命がけで伝えたかった事、守り抜いてきた事はこの令和という時代においてとても大切な事だと思う。2025年に皆様と共に第一歩を踏み出せた事本当に感謝しています。2050年の第300回をまずは目指して僕まず弛まず一歩一歩長く継続していきたい。

私は心の置きどころ一つで必ず未来は切り拓けると信じています。そして縁ある方々、森信三先生に感謝申し上げます。

# 塾生からも学ぼう 塾生講話

## 上田 真弓 塾生



まずは、自己紹介から。  
笑顔の時間の代表である。  
保育士、トリマー、そしてヘルパーとして歩んできた。  
結婚して、東北などにいた。子どもも4回転校している。  
子どもの不登校、いじめなどつらい思いをさせた。  
そのなかで、顔で人生が変わると気づいた。学んで思考を変え、行動が変わった。  
介護施設で、「笑顔の時間」をしていたら、広い世界へと勧めがあり、今ご縁を頂いています。  
表情の学びを拡げて16年目となります。自衛隊でも研修をしています。  
「次世代に笑顔をつなぐ」というとともに、全国講演が夢である。顔の筋肉は脳につながっている。脳の海馬が委縮すると認知症が進む。眉間にしづがよるとストレスホルモンが出される。  
金メダリストのカールルイスはゴール手前で笑っていた。  
しんどいときほど、顔の筋肉をほぐさないといけない。  
笑顔のラジオ体操 実践しましょう。  
指を組んで太陽に腕を伸びをして  
お顔のタッピング  
口に空気をためて顔風船をつくり、左右上下に  
舌でほっぺを押して、歯茎をおして  
舌を上下に出して  
口角をあげましょう  
あえいえい そしてみんなで笑いましょう。

## 田中 喜一朗 塾生



何を話そうか悩んできた。  
「ハイツ」と引き受け、後で後悔するのであるが…  
事務機器の販売をしてきた。若いときは売上至上主義であった。トップセールスマントとして、表彰され、天狗になっていた。損が得か メリット・デメリットの世界で生きてきた。

人間学塾・中之島には、平成28年6月 柴田秋雄先生のときに、聴講として参加した。経営者など立派な方ばかりで、自分には異世界であった。義理で参加していることもあり、そこで満足していた。しかし、「入塾しますか」との問い合わせに、思わず「します」と無言の圧力に負けてしまった。

2回、3回と聴いてもすぐに忘れてしまう、また、グループ討議での不安もあるが、続けています。

人間学塾・中之島では、石川真理子先生の『5月の蛍』は大好きである。また、伊勢の宿泊研修も印象に残っています。

勤労奉仕にも参加してきました。皇居に集まった青年有志で始まった奉仕。当時の天皇陛下に拝謁させて頂き、大変緊張したことを思い出します。

現在、第2土曜朝、西梅田公園で掃除をしています。学んで実践して、成長し、一隅を照らしていきたい。

「人間学塾・中之島」に参加して  
川崎 葉子 塾生  
(福島県いわき市)



朝5時過ぎ始発の  
東京行きに乗つて  
「いわき駅」を出る。

東京駅で乗り換えた新幹線は、  
昼頃にやつと新大阪駅のホームに  
すべり込む。会場に入れば、代表  
をはじめ大勢の仲間が、温かく迎  
えてくれる。誰もが「向上心」と  
「好奇心」を身にまとい、数時間  
の自己研鑽の「とき」を共有し、  
また意見交換のシェアタイムは、  
塾生同士の懇親を深め、互いのもつ  
ている力を与えあえる貴重な体験  
でもある。

身を委ねる。毎回、登壇される超  
一流の講師陣の講義は素晴らしい、  
また意見交換のシェアタイムは、  
塾生同士の懇親を深め、互いのもつ  
ている力を与えあえる貴重な体験  
でもある。

住む場所も、仕事も身分も全く  
違った環境の人たちが一堂に会し、  
ひたすら、自分を高めるために  
「時と空間」を一にする。至福の  
「ひととき」を共有してくださる  
仲間に心から感謝です。夜11時  
半、「いわき駅」に到着した「ひ  
たち号」を降りて、日付の変わ  
頃、自宅にたどり着く。長かった  
そして充実した私の一日が終わる。

寺田一清先生に導かれて ㉕ 近藤宏枝  
「書は心であり魂である」

私が尊崇している生涯の師・森信三先生は  
国民教育者の師父と称せられ、美への鑑識眼  
も超一流だったと確信します。その森先生に  
東京文京区にある画廊『羽黒洞』の創立者・  
木村東介氏が「民族の遺産」と題した次のよ  
うな一文をおくられていました。「長い間わ  
たくしは、此の世の眞物と偽物を見分ける事  
に生涯をかけてきましたが、一度森先生の書  
体を拝見して、近頃稀れに見る眞物の書と確  
信いたしました。私の眼に狂いはありません。  
(中略)書は、書体や筆法の格好を見るので  
はなく筆者的心や魂を見るのですから、下  
手や上手は全然関係なく、慈雲の書の良さは  
手で無茶苦茶で行儀わるくとも、森先生に変  
わりなく人々は書の奥に潜む作者の魂を見る  
わけです。どうか後の世にどんどん残してお  
いて下さるよう願つてやみません。「これは  
森先生の墨蹟集『不尽先生墨蹟集』(不尽と  
は森先生の雅号)の序文に紹介されたもので、上辺だけ  
ここに「書は筆者的心や魂を見る」とあります  
が、人間の顔は内面から滲み出たものが作  
るよう、書もいくら手法を学んで上辺だけ  
綺麗に書けたとしても、それだけのことな  
です。最近あるご縁のお方から、森信三先  
生直筆の「如幻」の一筆をお手紙と共に預  
りしました。その書を拝見しながら、書かれ  
た書の「美」が先にあり、それを書いた人の  
人格が優れた「善」の作品であるのだと、改  
めて心に深く感じ入った次第であります。  
更に私は様々なご縁から、森先生の直筆の  
書をいくつか手元に置くことが叶えられてい  
ます。筆の運びや墨の濃淡や、その気品あふ  
れる文字の美しさを味わえる幸せに浴せる不  
思議を思い、これもまた寺田一清先生のお導  
きのお陰と感謝するほかないのです。

令和7年1月2日 鍵山秀三郎先生がご逝去されました。（享年91才）先生には、天分塾創設以来、当塾において常任講師をお努めいただき、病に臥されてのちも人間学塾・中之島には惜しみないご支援をいただきました。先生とのご縁と大いなる御教えに感謝いたすとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

## 【開講日変更について】

第13期の5月の人間学塾・中之島の開講日は、  
**令和7年5月17日(第3土曜日)に変更となります。**  
会場は、大阪大学・中之島センター6階セミナー室E Fとなります。  
開講時刻(13:00~)には変更ありません。  
皆様にはご迷惑をおかけいたしますことをお詫び申し上げます。

日程のご変更を何卒よろしくお願ひいたします。

## 編集後記

当塾常任講師であられた鍵山秀三郎先生のご逝去の報、謹んで哀悼の意を捧げます。  
一月は鍵山先生からバトンを引き継がれた木南一志先生のご講話でした。先生からの学びをそれぞれ引き継いでいかねばと思ひます。ありがとうございます。

編集長 西村俊幸

◆日時 令和7年3月15日(土)午後1時～  
◆会場 大阪大学中之島センター  
10階 佐治敬三ホール

「魂を立てる菌のはなし」  
テーマ 執行草舟先生

『人間学塾・中之島』次月案内